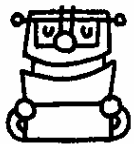


小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /  
人と動物の体 / 理解シート

## 切っても赤い血が出ない動物は、血液はないの



せぼね  
背骨のある動物以外は、血液の色が赤くないものが多いだけで、血液と同じはたらきのものはあるのさ。

人間の血が赤いのは、ヘモグロビンという赤い色素があるからです。このヘモグロビンが酸素と結びつきやすく、体内に酸素を運ぶという、血液の大切なはたらきをしています。魚、カエル、鳥、は虫類、ほ乳類にゅうるいなどの背骨がある動物は、ほとんどみんな、血液にヘモグロビンをもっていて、血は赤い色をしています。

どぶ川にいる赤いユスリカ、アカガイ、ゾウリムシなどにはヘモグロビンがありますが、それ以外の背骨のない動物は、血が赤い色ではありません。

ケヤリムシや貝などには、緑色の血液や青色の血液をもつものもいます。

こん虫やイカ、タコなどのように、手足をちぎられても、体を切られても、血が出てこないように見えるものは、血液に色がなく、うすくてほとんど気がつかないような色をしているだけなのです。

### ミミズ、貝、こん虫も、血液と同じはたらきをするものをもっている

人間は、肺はいでとり入れた酸素を、血液が体内に運んでいます。ミミズは、体の表面から皮ふ呼吸こきゅうで酸素をとり入れ、貝はえらから水にとけた酸素をとり入れていますが、体内に酸素を運ぶのは血液（と同じはたらきをする体液）です。こん虫も、腹部ふくぶのあなからとり入れた酸素を、血液が体内に運んでいます。赤い色はしていないけど、どの動物でも、血液が酸素を体内に運ぶはたらきをしています。



血は赤いものって、  
決まっていらないんだね。

もっと知りたい人へ：「血液の成分は、どんなものが入っているの」「ほ乳動物以外の小動物の呼吸のしかたを教えて」も、見てみよう。